

小学校音楽

指導のポイント

日々の授業において、指導事項と共通事項の「**明確化**」、「**焦点化**」、「**具体化**」を図り、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力を育成しましょう。

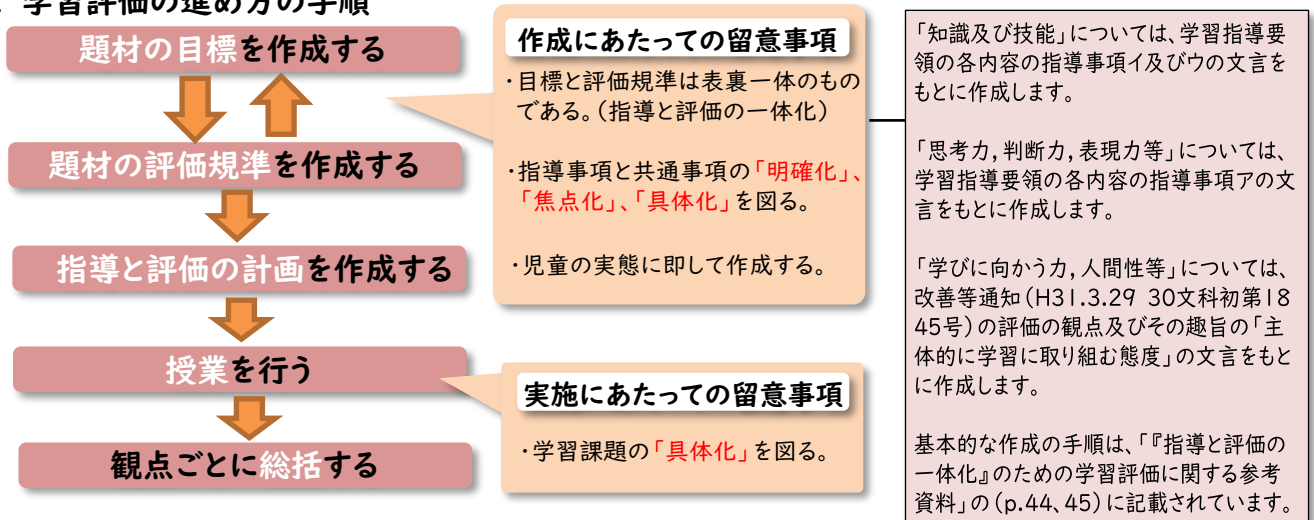
評価のポイント

指導事項と共通事項の「**明確化**」、「**焦点化**」、「**具体化**」を図ることにより、児童が資質・能力を身に付けている具体の姿（記述や発言、技能の状況等）を見取りましょう。

1 学習指導要領の目標と内容における資質・能力の系統立て

資質・能力	知識及び技能		思考力、判断力、 表現力等	学びに向かう力、 人間性等
	知識	技能		
教科の目標	(1)		(2)	(3)
学年の目標	(1)		(2)	(3)
内容	表現	イ	ウ	ア
	鑑賞	イ	—	ア
	[共通事項]	イ	—	ア

2 学習評価の進め方の手順



3 題材における指導と評価の進め方

【事例】第4学年 歌唱「とんび」

題材名「情景を思い浮かべ、音色や強弱と曲想との関わりを感じ取って歌おう。」

□題材の目標

- (1) 「とんび」の曲想と音楽を形づくっている要素の表れ方との関わりについて気付くとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な、ハ長調の楽譜を見て歌う技能を身に付ける。→ 指導事項イ及びウの(ア)
- (2) 「とんび」の音色、強弱を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えるとともに、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつ。
→ 指導事項ア、共通事項における思考・判断のよりどころとなる音楽を形づくっている要素「音色」、「強弱」
- (3) 情景を思い浮かべ、音色や強弱と曲想との関わりを感じ取って歌うことに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組む(とともに、日本のうたに親しむ)。→ 題材名+評価の観点及びその趣旨

STEP 1

資質・能力の3つの柱に沿って作成します。どの**指導事項**と**共通事項**のどの部分を取り扱うのか、しっかりもつことが「**明確化**」です。

(3)は、前半に題材の学習で興味・関心をもたせたい事柄を記載し、後半は評価の観点及びその趣旨の「主体的に学習に取り組む態度」の文言をもとに設定しました。文末()内の感性や思いやりなどの観点別評価や評定には示しきれない部分を加えてもよいです。

□題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知「とんび」の曲想と音楽を形づくっている要素の表れ方との関わりについて気付いている。</p> <p>技思いや意図に合った表現をするために必要な、ハ長調の楽譜を見て歌う技能を身に付けている。</p>	<p>「とんび」音色、強弱を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えるとともに、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。</p>	<p>情景や心情を思い浮かべ、曲想を味わいながら表現を工夫して歌うことに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。</p>

STEP 2

表現領域の「知識・技能」の観点については、見取る場面が違う場合、**知**(「～気付いている」)と**技**(「～身に付けている」)に分けて設定します。見取る場面が同じ場合、**知技**として一文で設定する場合があります。「技能」に関わる指導事項ウの(ア)には複数の指導内容がありますが、本題材は「ハ長調の楽譜を見て歌う技能」についての指導内容に「**焦点化**」して指導します。鑑賞領域は、「知識」のみの設定となります。

STEP 3

絞り込んだ指導事項について、児童や教師が、何を学習する(させる)か分かるように具体的にかみ砕くことが「**具体化**」です。

□指導と評価の計画

時	◆学習課題 ○学習活動	知・技	思	態
		〈 〉内は評価方法		
1	◆せんりつの動きに合った声の出し方と強弱を工夫しよう。	知 〈学習シート〉		
	○1番を歌うことができるようにした後、「ピンヨロー」の部分に着目し、旋律の動きとそれにふさわしい音色と強弱について気付く。			
2	◆とんぴの様子を表すのにふさわしい声の出し方と強弱で歌おう。	技 〈聴取〉	思 〈観察、学習シート〉	態 〈観察、学習シート〉
	○とんぴの様子を表すにはどうすればよいか、イメージをもとに旋律に合った音色や強弱の付け方に気付いて歌う。			

POINT②

○態における評価場面の精選

日々の授業の中で児童の学習状況を適宜把握して指導の改善に生かすことに重点を置くことが重要であり、観点別の学習状況についての評価は、毎回の授業ではなく原則として単元や題材など内容や時間のまとめごとに、それぞれの実現状況を把握できる段階で行うなど、その場면을精選することが重要である。
本題材では、第2時に該当するが、第1時も評価をしないということではない。

STEP 4

本時の学習課題についても「**具体化**」します。「**具体化**」を図ることで、本時のねらいを教師と児童で共有することに繋がります。教師は、児童に何を学ばせ、どんな力を身に付けさせるのかを具体的にもちましましょう。
また、学習課題に対して、分かったこと、できるようになったことを児童自身に言わせたり書かせたりしましょう。

POINT①

OB と判断する状況例 (例:思の場合)

音色、強弱を聴き取り、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、考えをもとにどのように歌うかについて話したり書いたりしている。

【概ね満足できる記述例(B)】

1回目と2回目のピンヨローは、大きなとんびなので強く大人のように歌いたい。
3回目と4回目のピンヨローは小さなとんびなので弱く子供のように歌いたい。

OA と判断する状況例 (例:思の場合)

音色、強弱を聴き取り、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、それらの関わりについて考え、その考えをもとにどのように歌うかについて思いや意図をもったことについて話したり書いたりしている。

【十分満足できる記述例(A)】

1回目と3回目のピンヨローは、親とんびが優しく話しかけている様子にしたいので、少し強めだけれど優しい声の出し方で歌いたい。2回目と4回目のピンヨローは、子とんびが親とんぴの呼びかけに嬉しそうに答える様子にしたいので、弱めだけれど明るくはっきりとした声の出し方で歌いたい。

※併せて、【努力を要する状況(C)】への手立てを考える。例えば、どのように歌うか思いや意図を見取ることが難しい児童に対しては、音色(声色)と強弱について聴き取ったことと感じ取ったことを、言葉のほかに身体表現や絵で表現させることなどが考えられる。

STEP 5

児童が実現している姿(記述や発言、技能の状況等)を教師自身がもつことも大切です。